

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	海外メディアにおける静岡の認知度向上				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	竹下 誠二郎
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	竹下 誠二郎

講演題目	海外メディアにおける静岡の認知度向上
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>中国の南下政策、そしてロシアのウクライナ侵攻により、自由資本主義諸国と中国・ロシアの覇権争いはさらに熾烈なものになっている。しかし国際化は過去 50 年の経済発展において最も有益な進展をもたらしている。ポスト・覇権争い、そしてポスト・コロナにおける日本経済再生の一環として、インバウンドの流入を即す動きが明確化している。特に静岡におけるインバウンドの流入を即す動きは活発化されるべきであり、またその動きは顕著になるものとする。これは観光に限らず、あらゆる業態の誘致やコラボレーションを呼び込むことを指す。</p> <p>しかし静岡は基盤産業と非基盤産業、双方ともそのポテンシャルが大きい好条件にもかかわらず、海外メディアにおける静岡の認知度は低いのが現状である。域外、特に海外からの誘致や資金流入を増やすには、海外メディアにおける静岡の認知度を上げるのは必須だ。しかし、認知度向上のための具体策はあるのだろうか。</p> <p>東京オリンピックには認知度を高め、継続する絶好の機会であった。しかしコロナのため、その機会を活用するチャンスは著しく限定され、「静岡」の認知度は未だ極めて低いのが現状である。海外メディア、特に欧州におけるトレンドセッターである英国のメディアを中心に、アジア、北米、中東、欧州大陸などでも静岡のエクスポージャーを上げるうえでのエクスペロトリー・マーケティング・リサーチを行い、問題点と調査目的のさらなる明確化を行い、海外メディアにおける静岡への認知度向上・改善を推進し、域内へのマネタイゼーションを円滑にするきっかけを探ることを目標とする。</p> <p>研究の計画と方法とし、問題点（低認知度の要因）の確認・分析においてセカンダリー・リサーチからの情報収集とエクスペロトリー・リサーチにおける初期段階としてのインタビューやインフォーマルなディスカッションを行った。また、調査目的のさらなる明確化のため、フォーカス・グループなどの定性的分析、そしてデータ・コレクションの手法など、トライアングレーション分析の可能性の探求し、マネタイゼーションへのプロセスへつなげる最適ナリサーチ・デザインを作成を行う。</p> <p>静岡域外から域内へのマネタイゼーションの推進・円滑化を行うにあたって、その第一歩であるエクスポージャー向上の可能性の探求を行う。英国をはじめとする先進諸国を主に、また発展途上国におけるエクスポージャー向上も目指す。さらに中国、ロシア、イランなどの専制国におけるエクスポージャー向上も目指す。</p>